令和3年 2月「月 報」

1 はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は、1月7日に東京都をはじめとする1都 3県を対象に、また13日には大阪府など7府県にも緊急事態宣言を発令しました。

コロナ蔓延の話題ばかりで疲弊する国民にとって、昨年12月の「はやぶさ2」の無事の帰還は久々の明るいニュースでした。太陽系と生命誕生の起源を知る手がかりとなると言われる鉱物資料入りのカプセルを地球から約3億km彼方の小惑星「りゅうぐう」から6年の歳月をかけて持ち帰る壮大なドラマ(活動)ですが、わが国の科学技術力を世界に示した好例と言えるでしょう。

一方、このような科学技術力を持つわが国においてさえ、コロナの感染を抑え込むことはできずに苦労しています。コロナ感染を封じ込めるのは、ワクチン開発等の技術力はもちろんのこと、感染症への国民一人一人の対応力が問われています。日本人は礼儀正しく緊急事態には国民を挙げて危機に対処できると言われますが、新規感染者数の減少傾向は鈍く、コロナ感染防止の注意事項等をきちっと守り励行しているか疑問が待たれます。

コロナ感染拡大を受け、7日、岸防衛大臣は、防衛省・自衛隊の教育訓練、勤務態勢、 外出、行事などについて定めた大臣通達を発出し、「最後の砦」として求められる自衛隊 の役割を果たしていくと述べました。

さて、2月になりますと、各県家族会では、入隊・入校予定者激励会が予定されます。 昨年に続き、コロナの影響で開催の可否判断を迷うことが多いと思いますが、コロナ感染 防止対策をしつかり行った上で、新しく入隊・入校する若者を激励するとともに、ご家族 が本会に入会して頂く絶好の機会でもあります。新たに配布した本会のパンフレット、 おやばと2月特集号、総合募集情報誌「ディフェンスワールド21」等を活用して、各地 本との密接な連携の下、「会員獲得一人が1人」を実践し、入会者の獲得につなげていきた いと考えます。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 防衛省・防衛庁記録の YouTube による記録映像の一挙公開

防衛省は、昨年12月下旬から防衛省のホームページの動画で、昭和32年から平成 18年までの毎年の記録映像50本(年分)を公開しています。今回の公開について、 防衛省では「以前から様々な媒体で保管していたものをデジタル化し、これを機会に 公開した」としています。

・防衛庁記録(昭和32年~平成18年)

 $\underline{https://www.\ youtube.\ com/watch?v=JR7JtUGba6w\&list=PLSXvq0BfN9pLAhKpEMUbCVJGpN}\\ \underline{cb178mT}$

・防衛省記録(平成19年~令和元年)

https://www.youtube.com/playlist?list=PLSXvqOBfN9pILyJN4G-HRD378shds-y0b

なお、平成 19 年以降のものは、これまでも公開されていました。昭和 31 年以前の ものなどもデジタル化中とのことです。映像へのアクセスは、「ユーチューブ防衛省動 画チャンネル」で検索し、「動画」をクリックです。

(2) 北陸地域における大雪に係る災害派遣活動

1月5日以降、北陸地域では、例年の4倍以上の豪雪に見舞われ、各自治体の除・排 雪が追い付かずに高齢者施設等の家屋倒壊の恐れが生じたため、秋田・新潟の両県知事 からの災害派遣要請に基づき、第21普連(秋田駐屯地)、第2普連・第5施設群(高 田駐屯地)等の部隊が除・排雪活動を実施しました。

また、1月7日以降の大雪により、北陸道及び東海北陸道の一部区間において多数の 車両の滞留が発生したことから、富山・福井両県知事からの災害派遣要請に基づき、第 14普連(金沢駐屯地)はじめ、第10師団の各部隊が燃料や食品等の救援物資を届け ました。



民家の雪を除・排雪(第21普連) 上越市で夜間高所の雪下ろし(第5施群)



3 家族会の活動

(1) 第38次派遣海賊対処行動水上部隊への激励(京都府家族会)

1月19日、京都府自衛隊家族会 (小川清会長)は、第38次海賊対処 行動水上部隊の護衛艦「せとぎり」 への本会からの慰問・激励を担任し ました。当日は、小川会長の代理で 米田利平舞鶴家族会会長が「せとぎ り」艦長の佐藤慎也2等海佐に激励 品を贈呈しました。



佐藤艦長へ激励品を贈呈する米田舞鶴家族会会長

(2) 北方領土返還要求全国大会の映像を初の全国配信

2月7日、令和3年の北方領土返還要求運動全国大会がラインキューブ渋谷(旧渋谷 公会堂)で開催されます。今年は、新型コロナに対する緊急事態宣言が発令されてい るため、残念ながら無観客で行われます。尚、本会は、大会の実行委員会の幹事団体

であり、当日は本部事務局から2名が参加し支援いたします。

菅総理大臣及び茂木外務大臣等の挨拶(ビデオメッセージ)に引き続き、例年どおり元島民はじめ根室市長等の返還要求発言の予定です。

時間短縮の関係で本会代表者の発言はありませんが、大会の映像がユーチューブにより全国配信(2月末まで視聴可能)されることになりました。

会員の皆様には、「日曜日11:30~12:30」でもあり是非ご覧になるよう お願いします。**家族会の HP から閲覧できます。**ホームページを開いていただいて、お 知らせのところにクリックの案内がありますのでそこを押してください。

http://www.jkazokukai.or.jp/ リンク先(北対協) につながりそこで閲覧できます。

(3) UNMISS 司令部要員からの御礼の手紙

UNMISS 司令部には、自衛隊から情報・施設・兵站・航空運用の4名の幕僚が約1年交代で南スーダンに派遣されています。

本会は、故郷日本の味を想い起すような慰問・ 激励品(右写真参照)を「自衛隊の活動支援基金」 により定期的に送っています。

上記の慰問・激励品に対する司令部要員一同 からの御礼の手紙が届きましたので紹介します。 *拝啓*



本会からの激励品

師走の候、家族会の皆様におかれましては益々ご清祥の事と心からお慶び申し上げます。 先日は、我々UNMISS 司令部要員のために慰問・激励品を送っていただき、誠にありがと うございました。南スーダンにおいて入手困難な魚の缶詰、「おやばと」で触れる日本の活 字・ニュースに強く励まされると共に、日本でも新型コロナ対応で大変な状況にも拘らず、 我々を日本から応援してくださっている皆様のお気持ちが感じられ、非常にうれしく、また 心強く思いました。

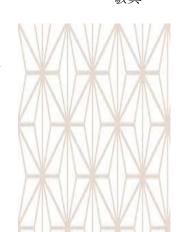
南スーダンはいよいよ乾季を迎え、日に日に厳しい暑さを感じるようになってまいりましたが、我々司令部要員はお陰様で恙蕪〈職務に邁進しております。

我が国の代表として任務を完遂し、健康に無事に帰国できるよう、引き続き職務に邁進いたしますので変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

末櫃ながら、伊藤会長をはじめ、自衛隊家族会の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念致し しております。

> 令和 2 年十一月 吉日 UNMISS 司令部要員一同 敬具

(4)「南西乃こばと」発刊(兵庫県東播南西地区自衛隊家族会) 東播南西地区家族会(金川雅彦会長)は、昨年からのコロナ感染拡大(パンデミック)により、自衛隊関連行事は自粛



又は中止、家族会行事の開催も困難となり、活動停止状態に 追い込まれたことから、コロナ禍での家族会活動を模索した 結果、新年より、「南西乃こばと」を発刊することを決めま した。

創刊号が1月ということで、役員一同の年頭の挨拶に続き、 兵庫地本加古川地域事務所長(河野龍司1等陸尉)の新年の

辞、第六回「母の会」開催や 戦跡「姫路海軍航空隊鶉野飛 行場」研修記事などを掲載し、 「ウイズコロナにおける地区 会の活動を努めて多くの会員 に発信していきたい」との役 員一同の意気込みです。



姫路海軍航空隊鶉野飛行場研修

発行 東播南西地区自衛隊家族会事務局 南西 西西西 アン げんと 創刊号 令和三年一月東播南西地区自衛隊家族会 会報

乃

こばと巻頭

(5) 自衛隊家族会「問い合わせ窓口」の集計結果(月間報告)

ア全般

1月の問い合わせ件数は、3件(新規1件、継続2件)でした。

新規1件は、NHKの「クローズアップ現代」で報道された自衛官の自殺問題について、報道に対する親からの確認の相談でした。内容が過度ないじめによる自殺と受け取れるような恣意的な報道であり、防衛省もNHKに抗議した旨の説明等により問い合わせ者の会員も納得しました。

継続の2件のうち1件は、艦艇勤務の重荷から病気を発症し親元での自宅療養の後、地上勤務配置をしていた隊員が再び親元に帰省しており、今後の方向について、会員(父親)及び同地区会長から相談を受けました。当面、部隊及び部隊の医官と連携をとりフォローしていくことにしました。

継続のもう1件は、昨年末にハラスメント事案の疑いで部隊に内部調査をお願いしました。その結果、部隊から「ハラスメント被害はなかった」旨の報告を受けた会員(母親)から、「『もう少し頑張ってみる。』と隊員自身から連絡あった」旨の報告が、県家族会長を通じてありました。部隊の厳しい訓練に負けずに頑張って立派な自衛官として成長してほしいものです。

イ 集計結果 (概要)

○ 総件数 : 3件

○ 新再区分:「新規」1件、「再」2件

○ 問い合わせ区分:「隊員や家族に関する問い合わせ」(分類 I) 3件 内容は、職場関係 2 件、健康関係 1 件、その他 1 件

ウ 今後の方向

- A 継続の2件は、一件落着に終わらせずに長期的なバックアップ体制を維持する必要性を再認識しました。問い合わせ者それぞれの関係県会長あるいは地区会長も一緒になって心配し、フォローするという体制が出来上がったのは、改めて、本会の「問い合わせ窓口」ならではの「バックアップ体制=強み」を発揮することができたという点で、今後の参考になると考えます。
- B コロナの感染拡大は自衛隊にも重大な影響を及ぼしており、すでに相当数の 隊員が感染しています。

感染防止のための自衛隊特有の対策の中、隊員達は、様々な悩みやストレスを 抱えながら勤務していると推測されます。

本会としても、改めて、各会員に「継続的に隊員と密接に連絡を取り合い、普段と違う兆候、悩み、ストレス等を発見したなら、躊躇なく、「防衛省の相談窓口」や本会の『問い合わせ窓口』等を活用するよう勧めます。